

観光地 温泉足りない



嬉野温泉の足湯に漬かる観光客ら
11月、佐賀県嬉野市

自治体 掘削抑え「節湯」促す

各地の温泉で源泉水位の低下が深刻化している。インバウンド（訪日客）増加でくみ上げ量が増えたことなどもある原因とみられ、湯を十分確保できなくなっている温泉施設も出てくる。地元自治体が源泉の掘削を制限したり、業界に「節湯」を促したりしているが、抜本策はなく、関係者は苦慮している。

源泉水位低下

「水位は下がるも源泉は維持できている」。1月24日、佐賀県・嬉野温泉の水位低下を踏まえて開いた緊急会議で村上天祐嬉野市長は強調したが、昨年、源泉の平均水位は40・8センチと過去最低を記録している。県は、西九州新幹線開業に伴う観光客増で、湯の使用量も増えたことが主な原因と分析し、温泉地全体で1日当たりのくみ上げ量を目標の2800トンに抑えるよう旅館などに要請。昨年比1割減を目指し、旅館は深夜帯の客室内風呂の利用自粛要請など対策を講じ、

二セコ(北海道)		源泉の保護地域を指定
草津(群馬)	馬場	井戸の掘削時、町に事前申請を求める条例を施行
箱根(神奈川)		地下水や温泉の井戸の水位、水質のモニタリングを実施
湯野(佐賀)	賀	県による節湯要請、一部旅館で日帰り入浴を制限
別府(大分)		温泉マネジメント計画を策定。将来の湯量などをシミュレーション



源泉保護地域

徐々に水位が回復してきているという。数地内に源泉がある旅館「大正屋」副社長で、旅館組合の山口剛理事長は「客はかなり増えているが、県が要請するほど水位が低下している。青森県で日帰り温泉施設を経営していた男性は「源泉掛け流し」で県外客からも人気だったが、湯のくみ上げが困難になり、2022年5月に施設を廃業した。地中千メートル掘った井戸の水位が毎年1・2センチずつ低下。近くで新たな井戸を掘削したが、湯量や湯温が十分でなく、営業を継続できなくなった。北海道二セコ町などを含む二セコ地区では近年、外国人スキー客を当て込んだホテルや旅館が温泉井戸を使い、無駄を減らすことが重次々に掘削。湯の使用量が

ホテルはパイプなどを使って敷地内に源泉を引き入れた後、井戸から直接くみ上げたりして利用客に提供している。環境省の「2019年度温泉利用状況」によると、全国には7932カ所ある。都道府県別で最多は、大分(1090カ所)。以下、鹿児島、北海道と続く。増えているが、同町の担当者によると、二セコと協力して、貴重な観光資源である温泉を持続させていきたいと話した。源泉数日本一の大分県の別府市では、数十年前から徐々に源泉水位が低下。県や環境省によると、別府でくみ上げられる温泉水の大半分は、雨水が地中の熱で温められるなどしたもので、量が限られている。同市は、水位低下の原因は過剰利用とみて、22年4月、源泉の新規掘削を認めない「特別保護地域」を拡大した。ただ、源泉所有者が湯温や水位の低下で別の井戸を掘り直す「代替掘削」は認めている。温泉の分析などを行う公益財団法人中央温泉研究所(東京)の大塚弘統所長は「水位低下の主な要因は過剰採取。源泉水

【問1】 見出しの空欄に当てはまる語句を次のア～ウから選びましょう。

- ア 施設の老朽化深刻
- イ 温泉ブーム過熱
- ウ 訪日客の需要増

【問2】 外国人が訪れる旅行のことを何といいますか。記事の中から抜き出してカタカナで答えましょう。

【問3】 佐賀県嬉野温泉の水位低下の原因は、どのように分析されていますか。

【問4】 北海道二セコ地区で湯の使用量が増えているのはなぜですか。

【調べてみよう】 外国人観光客の増加に伴い、観光地ではどのような問題が生じ、持続可能に向けどのような対策がとられているか事例を調べてみよう。

2025年3月16日付18面

* 習っていない漢字のよみがなや難しい用字用語の解説 廃業(はいぎょう) 施設(しせつ) 掘削(くつさく) 促(うなが)したり 抜本策(ばつぽんさく)＝根本(こんぽん)の原因を抜き去る工夫 苦慮(くりよ) 維持(いじ) 嬉野(うれいの) 踏(ふ)まえ 緊急(きんきゅう) 伴(ともな)う 分析(ぶんせき) 抑(おさ)える 要請(ようせい)＝こうしてほしいとたのむこと。強く願い出ること 風呂(ふろ) 自粛(じしゅく)＝自分の行いや態度をつつしむこと 徐々(じょじょ) 敷地(しきち) 驚(おどろ)いた 掛(か)け流(なが)し 掘(ほ)った 継続(けいぞく) 含(ふく)む 当て込(こ)んだ＝そうなるだろうと見込む 環境省(かんきょうしょう) 過剰(かじょう) 採掘(さいくつ) 代替(だいたい) 分析(ぶんせき) 徹底(てつてい) 無駄(むだ) 指摘(してき)

